

コード No. 19022

IBLysis- I (可溶化緩衝液)

容 量 : 50 mL

はじめに : IBLysis-I は TNE 緩衝液をベースに弊社独自の改良を加え、細胞や組織の可溶化に適した緩衝液として開発されました。

組 成 : NP-40 および EDTA を含むトリス塩酸緩衝液

用 途 : ELISA 法、ウェスタン ブロットニング法、免疫沈降法等におけるサンプル (培養細胞や組織)の可溶化

使用方法 : 実施例

1) 培養細胞

培養細胞 ($1 \times 10^5 \sim 1 \times 10^7$ 個)を 0.5 mL の IBLysis-I に加え Vortex またはピペティング等により十分に混和した後、2~8 °C にて 30 分間ローテーション混和を行います。その後、10,000 rpm, 10 分間(2~8 °C)遠心分離し、その上清を各目的に応じて調製しご使用ください。

2) 組織

適量の組織を IBLysis-I に加え氷上にてホモジナイザーで破碎後 2~8 °C で 4 時間静置したのち 10,000 rpm、10 分間(2~8 °C)遠心分離し、その上清を各目的に応じて調製しご使用ください。

総タンパク量に対する目的タンパクの割合を知るために、Lowry 法等を用いて可溶化後の総タンパク量の定量をおすすめします。

使用上又は
取扱い上の
注意 : 1. 2~8 °C で保存してください。
2. 本製品は界面活性剤入りです。開封には注意してください。また、激しく混和すると泡化しますので注意してください。
3. 衣服、皮膚等への接触および廃棄には十分注意し、使用後は手洗いなどをおこなってください。
4. まれに析出を認める場合がありますが、性能に問題はありません。
5. 有効期限切れの試薬は、使用しないでください。
6. 製品は、研究用試薬です。診断等に用いることはできません。
7. 本製品は、ご使用のサンプルによっては可溶化条件が異なります。あらかじめ少量のサンプルで可溶化条件をご検討ください。

保存方法 : 2~8 °C

使用期限 : 製品に表示

コード No. 19022

IBLysis- I (可溶化緩衝液)

容 量 : 50 x 0.5 mL

はじめに : IBLysis-I は TNE 緩衝液をベースに弊社独自の改良を加え、細胞や組織の可溶化に適した緩衝液として開発されました。1 検体用として 0.5 mL ずつチューブに分注されていますので、すぐに処理を開始できます。

組 成 : NP-40 および EDTA を含むトリス塩酸緩衝液

用 途 : ELISA 法、ウェスタン ブロットティング法、免疫沈降法等におけるサンプル (培養細胞や組織) の可溶化

使用方法 : 実施例

1) 培養細胞

培養細胞 ($1 \times 10^5 \sim 1 \times 10^7$ 個) を IBLysis-I のチューブに加え、Vortex またはピペッティング等により十分に混和した後、2~8 °C にて 30 分間ローテーション混和を行います。その後、10,000 rpm, 10 分間(2~8 °C)遠心分離し、その上清を各目的に応じて調製しご使用ください。

2) 組織

適量の組織を IBLysis-I のチューブに加え、氷上にてホモジナイザーで破碎後 2~8 °C で 4 時間静置したのち 10,000 rpm、10 分間(2~8 °C)遠心分離し、その上清を各目的に応じて調製しご使用ください。

総タンパク量に対する目的タンパクの割合を知るために、Lowry 法等を用いて可溶化後の総タンパク量の定量をおすすめします。

使用上又は
取扱い上の
注意 : 1. 2~8 °C で保存してください。
2. 本製品は界面活性剤入りです。開封には注意してください。また、激しく混和すると泡化しますので注意してください。
3. 衣服、皮膚等への接触および廃棄には十分注意し、使用後は手洗いなどをおこなってください。
4. まれに析出を認める場合がありますが、性能に問題はありません。
5. 有効期限切れの試薬は、使用しないでください。
6. 製品は、研究用試薬です。診断等に用いることはできません。
7. 本製品は、ご使用のサンプルによっては可溶化条件が異なります。あらかじめ少量のサンプルで可溶化条件をご検討ください。

保存方法 : 2~8 °C

使用期限 : 製品に記載